

川崎市洪水ハザードマップ 麻生区版



「意識と準備が命を守る！」

洪水ハザードマップは、想定し得る最大規模の降雨によって河川が氾濫した場合、洪水浸水想定区域や避難場所を示したものです。



我が家の防災メモ

ハザードマップを使って我が家の防災メモを完成させましょう！！

自宅の災害リスク

地図を確認して、該当するところに○印を記入しましょう

	浸水無し	0.5m未満	0.5～3.0m	3.0～5.0m	5.0～10.0m	10.0～20.0m
洪水浸水想定区域(多摩川水系)						
洪水浸水想定区域(鶴見川水系)						
土砂災害(特別)警戒区域						

※多摩区においては、鶴見川水系による浸水は想定されていません。

避難方法

- 「状況に応じた避難行動」を確認し、避難方法を確認しましょう
 - 屋内待機
 - 立ち退き避難
 - 垂直避難

避難場所と避難経路

避難方法が決まったら、避難場所と避難経路を確認しましょう

〈避難場所1〉 _____

【 _____ 】

〈避難場所2〉 _____

【 _____ 】

〈避難場所3〉 _____

【 _____ 】

※避難場所と避難経路はそれぞれ複数決め、必要に応じて地図に書き込みましょう

非常持出品

非常持出品の保管場所は、家族のみなどで共有しましょう

〈保管場所〉 _____

【 _____ 】

みんなの約束

家族やご近所での約束事を記入しましょう

〈家族の約束事〉 _____

〈ご近所での約束事〉 _____

【 _____ 】

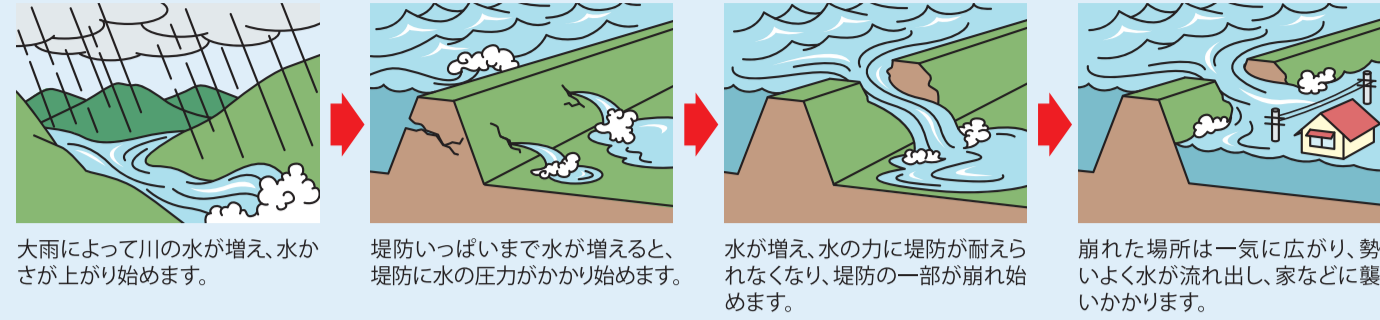
【 _____ 】

※避難に協賛が必要な方など地域で協力しましょう

洪水から身を守る

① 洪水発生メカニズム

●洪水は、大雨による河川の増水により、堤防が決壊するか、川の水が堤防を越えるなどして起こります。

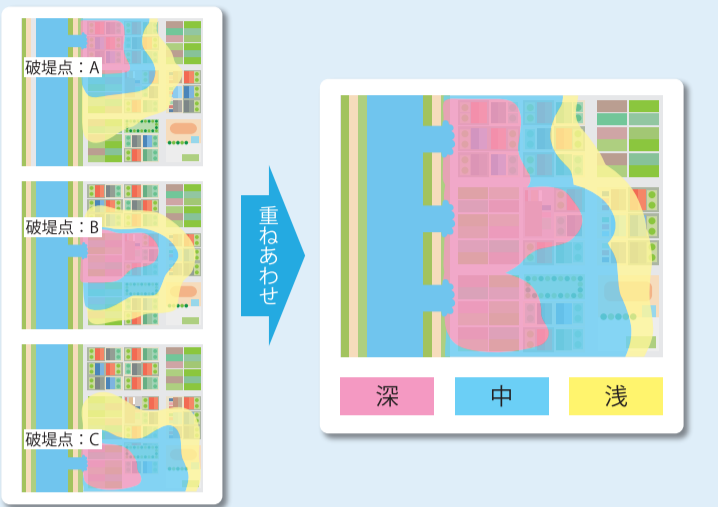


② 洪水浸水想定区域の考え方

●すべての破堤点(堤防が決壊すると想定したところ)について、どう氾濫し浸水するかを予想します。

●すべての予想結果を重ね合わせ、最大の区域と深さを表示しています。

●実際は、それらのうち限られた箇所が氾濫し、浸水区域が広がり、徐々に深くなります。



③ 避難に関する情報

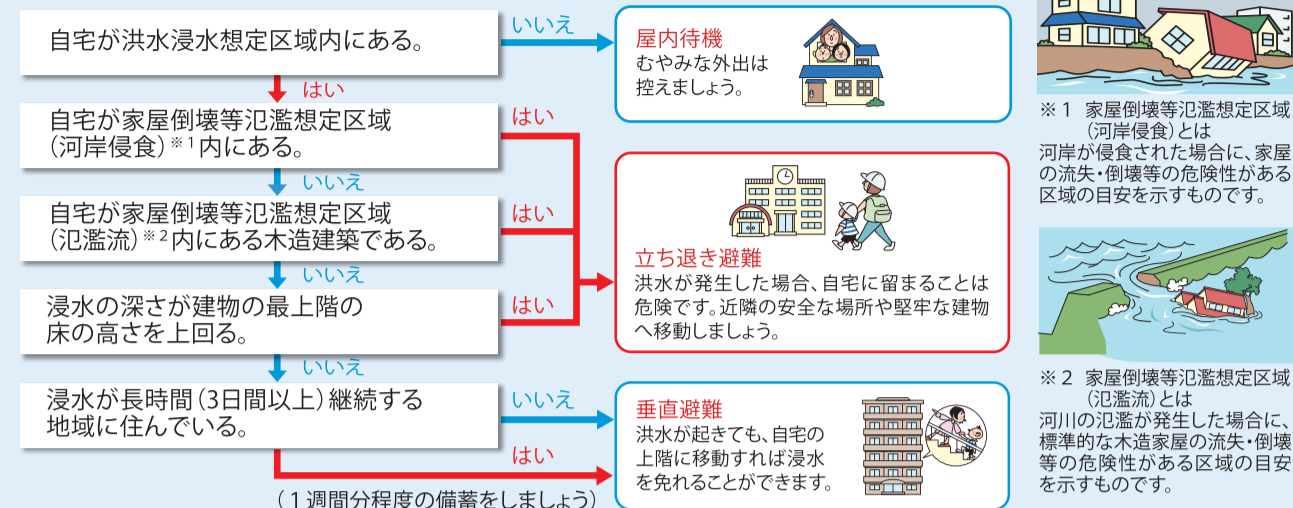
警戒レベル	状況	避難行動等	避難情報等
警戒レベル5	災害発生又は切迫	既に災害が発生又は切迫している状況です。命を守るための最善の行動をとります。	緊急安全確保(川崎市が発令)
警戒レベル4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難しましょう。避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難指示(川崎市が発令)
警戒レベル3	災害のおそれあり	避難に時間を要する人(高齢の方、体の不自由な方、乳幼児等)とその支援者は危険な場所から避難しましょう。その他の人は避難の準備を整えましょう。	高齢者等避難(川崎市が発令)
警戒レベル2	気象状況悪化	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	レベル2 大雨注意報等(気象庁が発表)
警戒レベル1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報(気象庁が発表)

※1 災害の状況を確認し把握できるものではないなどの理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。
 ※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。
 ※3 警戒レベル(避難情報等)と警戒レベル相当情報(水位や大雨等の情報)が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

④ 状況に応じた避難行動

●洪水の危険が迫った際には、川崎市から対象の地域に避難を呼びかけます。

●お住まいの環境によって、適切な避難行動に違いがありますので、ご自身の避難行動や避難先をあらかじめ検討し、マイ・タイムラインを作成しておきましょう。

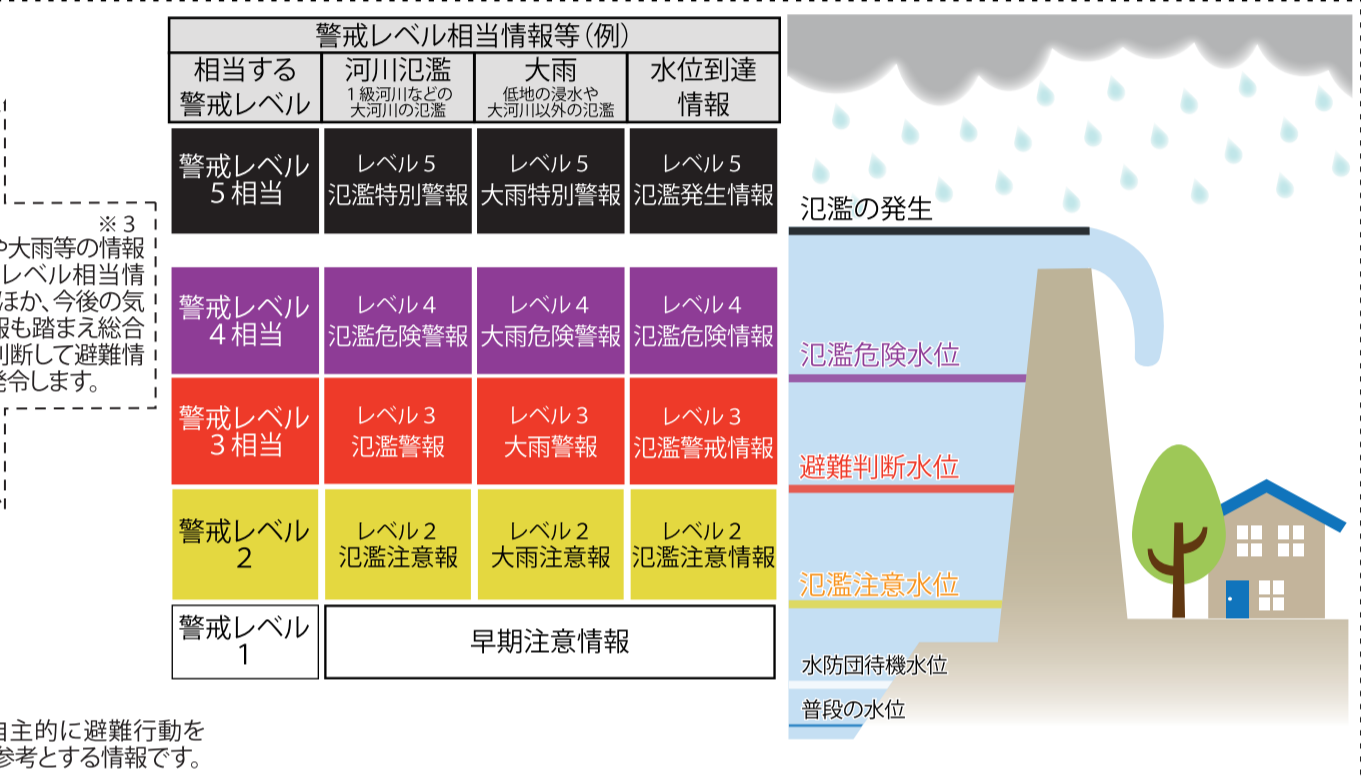


〈屋外に避難するときの注意点〉

- 動きやすい服装を心がけ、靴は7センチで締められる運動靴を履くようにする。
- 長靴は足を取られるため危険です。
- 避難所に向かう途中で身の危険を感じた場合は、避難所に限らず近くの安全な場所や建物に一時的に避難をする。
- 非常持出品(飲料水、食料、貴重品など)は、リュックサックなどに入れ、両手が使えないようにする。
- やむを得ず浸水している場所を移動する場合に備え、杖などを用意する。
- 浸水している場所は、蓋の閉ったマンホールや水路、側溝などへの転落の恐れ等があり、足元の安全確保が必要です。

〈助け合い(共助)〉

- 近くにお住まいの高齢者、障害者、妊婦、乳幼児、外国人、または旅行者など、一人で避難することが難しい方がいます。日ごろからご近所でコミュニケーションをとり、避難の際は、近隣の方々と声をかけあい協力しながら避難しましょう。



我が家の防災メモ

ハザードマップを使って我が家の防災メモを完成させましょう！！

自宅の災害リスク

避難方法

避難場所と避難経路

非常持出品

みんなの約束

雨の降り方と災害発生との関係

1時間雨量	状況	災害発生時のリスク
80ミリ以上	●息苦しくなるような圧迫感がある ●恐怖を感じる	●雨による大規模な災害の発生するおそれが強く、 ●厳重な警戒が必要
50～80ミリ	●ゴーゴーと激しく降る ●傘は全く役に立たなくなる	●都市部では地下街等に雨水が流れ込む ●マンホールから水が噴出する ●土砂災害が起こりやすい
30～50ミリ	●バケツをひっくり返したように降る ●傘をさしてもぬれる	●がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要
20～30ミリ	●どしゃ降り ●傘をさしてもぬれる	●側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる
10～20ミリ	●ザーザーと降る ●跳ね返りで足元がぬれる	●この程度の雨でも長く続くときは注意が必要

都市型水害について知る

大規模な洪水以外にも、都市は舗装された道路や宅地が多く、降った雨は地中に浸透しにくい。川や水路、下水道に一気に集まります。そのため、次のような危険がありますので注意しましょう。

〈低地の冠水〉
●低地や道路のアンダーパス*では冠水が起り、車が立ち往生し水没する危険があるため、通らないでください。

〈地下への浸水〉
●地下が浸水すると、①水圧でドアが開かない、②一気に水が流れ込む、③外の様子が分からず逃げ遅れるなど、命に関わる危険があるため、早めの避難が必要です。

〈中小河川の増水氾濫〉
●都市の河川は、急に増水し、流れが速くなり、氾濫するおそれがあります。
●誤って転落しないよう、大雨のときには近づかないでください。

〈過去の浸水〉
●過去に浸水があった所は、大雨のとき、ふたたび浸水するおそれがあります。事前に確認し、避難する際はこのような所は避けましょう。
●過去の浸水(浸水実績)については、川崎市防災ポータルサイトから確認できます。

その他のハザードマップ

土砂災害ハザードマップ

内水ハザードマップ

津波ハザードマップ

日頃の備え

家庭備蓄の充実

非常持出品チェックリスト

家庭などのできる浸水対策

ハザードマップの使い方

自宅を見つけましょう

避難する場所を確認しましょう

安全な避難経路を決めましょう

実際に避難経路を歩いてみましょう

家族で災害時の対応を話し合しましょう

学校やご近所で考えましょう

我が家の防災メモを完成させましょう

風水害時に役立つ情報

川の様子に関するリアルタイム情報

川崎市防災ポータルサイト

かわさき防災アプリ

防災行政無線・防災テレホンサービス

お問い合わせ先

緊急連絡先等